

新婦人 しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース ■3面 読者のページ/まんが/乱楽パズル ■4~5面 「秋の行動」署名資料/はたらくコラム/ホットライン ■6面 食事情/子育て相談/時事クロースアップ ■7面 新婦人のページ/主張/母の歴史



宮城 石巻市 丹野和子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

豪雨

激変する気象 生命を守るために

2020年7月豪雨、熊本県の被害(浅川浩一氏撮影)



7月の記録的豪雨や大型で強い台風10号の襲来、命を危険にさらす酷暑など、気象が激変しています。ハザードマップ(被害予測地図)について、国土問題研究会副理事長の磯部作さんに、地球温暖化と豪雨について、国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)評価報告書執筆者でもある鬼頭昭雄さん(2面)に聞きました。



ハザードマップを 防災減災に生かすために

国土問題研究会副理事長
元日本福祉大学教授 磯部 作さん



自分の住む地域を知る

各家庭に配られているハザードマップは、国土交通省の手引きなどをもとに、自治体で作成されています。ハザードマップは浸水する場所はわかります。しかし、浸水する雨量や時間などはほとんどわかりません。

2018年7月の西日本豪雨では、岡山県倉敷市真備町の被害が大きく報道されました。死者51人、約9割が65歳以上でした。ハザードマップ通りの浸水で、災害の主な原因は、高梁川の上流に降った400mm以上の雨とダムの上流に降った雨は200mmで、災害を発生させる雨ではなかったことが、住民の避難が遅れた理由の一つになったと思われま

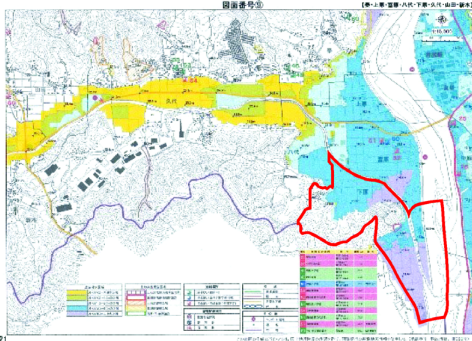
るが豪雨や河川氾濫のときに浸水する場所なのか、上流にどれくらい雨が降ったか何時間で近隣の川をあふれさせるのか、土砂崩れをしやすい斜面が周囲にないか、地質や盛土かどうかなど、知ることが大切です。自治体と住民で現地を確認し、ハザードマップを「防災」マップにしていくことが防災減災につながります。

西日本豪雨での明暗

本豪雨では、岡山県倉敷市真備町の被害が大きく報道されました。死者51人、約9割が65歳以上でした。ハザードマップ通りの浸水で、災害の主な原因は、高梁川の上流に降った400mm以上の雨とダムの上流に降った雨は200mmで、災害を発生させる雨ではなかったことが、住民の避難が遅れた理由の一つになったと思われま

避難するときの注意

避難所がどこにあるか、そこまで安全に避難する経路をどこで保存しておくか。夜間だったら雨か降っていたら？ 歩いて避難する場合、流木や土砂が混ざった流水だと深さ数十センチでも足をとられます。高台の避難所へ行く坂道は、傾斜によっては重い非常持ち出し袋などの荷物を持ちたり、車いすを押したりして登るのが困難です。避難所



上左図は総社市が各家庭に配った下原地区を含む地域のハザードマップ。赤い枠の部分が下原地区。右図はその下原市区を2区に分けて作った防災マップ。右方は川沿い部分。黄色の道が避難経路で、住宅地から高台へ登り、等高線に沿う経路になっている。(どちらも磯部氏提供の地図に、編集部が枠や川の名前などを入れて加工したもの)

本気の温暖化対策を

地球温暖化で気候が極端化することで、ひどい雨が降ることは予測できることなのです。国や自治体の本気で二酸化炭素(CO2)削減にとりくみ、企業に大幅削減をさせていくこと、災害危険区域への開発許可を出さないことなど、住民からも声をあげていきましょう。

9月24日号は休刊です

